

認知症のある人の福祉機器展示館

●何を目的とした展示館？●

近年、海外では、認知症のある人が用いる福祉機器が注目され、普及し始めています。しかし、国内では、市販されている機器はまだ少なく、機器の情報や実際に機器に触れる機会などが不足しています。そこで、この展示館では、国内外から収集した認知症のある人の福祉機器（約80点）を展示し、機器を見て、触って、体感できる機会を提供することを目的にしています。

●認知症のある人の福祉機器とは？●

認知症では、脳神経細胞の大幅な減少等により、記憶障害（例：夕食を食べたことを忘れる）や、見当識障害（例：時間の流れや自分のいる場所が分からなくなる）といった脳の情報処理の障害が生じます。認知症の軽度から中度の段階では、脳の情報処理の障害を補ったり、脳の機能を維持・向上する機器を用いることで、自分の力を活かして生活を営むことができます。

●どんなものが展示してある？●



アラーム付き薬いれ



服薬時間を音と光で伝え、飲む分量だけ薬を出せる。

心理セラピー人形



「ケアをする」ことで精神的な安らぎを得る



デイプランナー



点灯しているランプの数で予定までの残り時間を確認できる。

探し物発見器



探し物の位置を音で知らせる。

● もっと詳しく機器について知りたい方のための情報源 ●

国立障害者リハビリテーションセンター研究所 ホームページ

当研究所では、認知症のある人の福祉機器の開発研究と普及に取り組んでおり、取り組みやイベントの情報をホームページで公開しています。

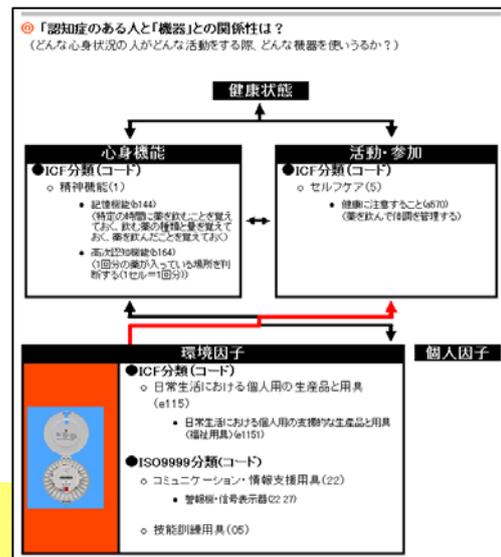
アドレス：<http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/dementia/topj.html>

認知症のある人の生活支援機器データベース

展示館の機器を中心として、認知症のある人の生活に役立つことが期待される機器の詳細な情報を閲覧できるデータベースを公開しています。

アドレス：http://www.rehab.go.jp/ri/kaihatsu/lifeSupport/top_ja.php

機器名	アラーム薬入れ(一回分取り出し機能つき)
	<p>どんな機能がある機器？</p> <p>「アラーム薬入れ(一回分取り出し機能つき)」は、ユーザーが「薬を飲み忘れることを防ぐ」ことをわらういたものです。具体的には、「薬を飲む時間を警報で知らせる、一回分に飲む薬が入っている場所のみ開閉する、薬を飲むために蓋をひっくり返すと警報がとまる」などの機能があります。これにより、「特定の時間に薬を飲むことを覚えておく、飲む薬の種類と量を覚えておく、薬を飲んだことを覚えておく」こと、「1回分の薬が入っている場所を判断する(1セル=1回分)」ことが軽しい心身の状態の人が、「薬を飲んで体調を管理する」ことを支援します。</p>
大きい画像を見る	
参考製品名	<p>機器の使用法に関する参考情報</p> <p>あらかじめ指定しておいた薬を飲む時間になると、薬が納められたケースが自動的に回転し、一回分の薬だけが取り出せるようになります。同時に、警報がなりますが、警報をとめるためには、薬入れをひっくり返す必要があります。警報の持続時間は、60分です。また、警報がなると同時に、蓋のランプが点滅します。この薬入れは、1日に飲む回数を指定できます。また、薬のケースは28回分の薬を一度にセットしておくことができます。</p>
製品情報	情報元
【価格:24,900円】【参考サイズ:直径180×40(D)mm】	<ul style="list-style-type: none"> • Pivo Tell
Automatic Pill Dispenser	



● 見学申し込みは？ ●

見学をご希望の方は、以下までお気軽に、お問い合わせください。

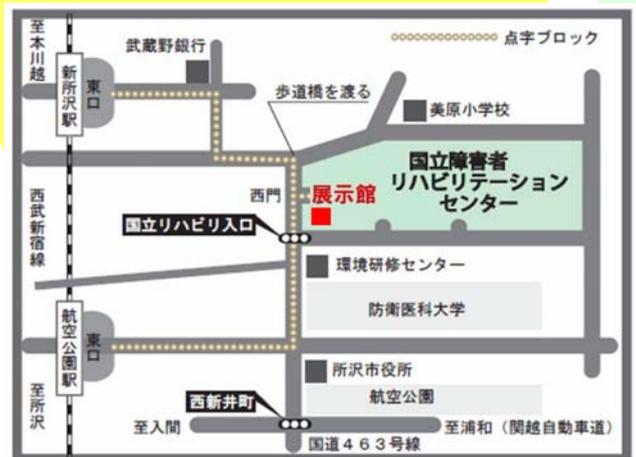
国立障害者リハビリテーションセンター研究所
福祉機器開発部 担当：武澤友広

郵便：〒359-8555 所沢市 並木 4-1

電話：04-2995-3100 (内線 2525)

FAX：04-2995-3132

Eメール：dementia@rehab.go.jp



西武新宿線 航空公園駅 東口
または 新所沢駅 東口から
徒歩15分